令和８年度　授業改善推進プラン　＜教科名　家庭科　＞

小平市立小平第五中学校

【生徒の実態】

	第１学年	第２学年	第３学年
学力分析	・食生活についての関心は高いが、基礎的知識の理解は個人差が大きく、不十分な傾向がある。 ・学習内容と実生活と関連付けることはできているが、生活の中で実践する生徒は多くない。	・衣生活に関しては関心の高い生徒もいるが、一方で興味関心の低い生徒もみられる。 ・自分自身の生活の中で身近な問題を見付けることができる。 ・見通しをもって作業ができる生徒が少ない。	・消費生活についての関心をもち取り組み、基礎的な知識の理解ができている。 ・学習したことを実生活に置き換え、自分の生活との関わりを深く考えることができる生徒は多くない。
学習状況	・多くの生徒が落ち着いて、意欲的に学習に取り組むことができている。 ・ワークや課題の記入内容もよい。 ・生活の中で課題を見付け、解決するために必要な深く考える力、思考力を高める必要がある。	・落ち着いて学習に取り組めている生徒もいるが集中力の継続が得意でない生徒も多く、課題である。 ・ワークや課題の記入内容はよい。 ・平面から立体をイメージする想像力を高める必要がある。	・多くの生徒が落ち着いて、意欲的に学習に取り組み、集中して取り組めている。 ・ワークや課題の記入内容もよい。 ・より深く思考する力を高める必要がある。
生徒アンケートの結果より	・基礎的な知識を定着させる復習時間が少ない。 ・学習の目的（めあて）の確認やまとめ時間が短い。 ・実生活での経験の差が大きいため、安心・安全に実習を行えるよう配慮が必要である。	・学習内容を理解し、実習、課題に前向きに取り組む意欲を高める必要がある。 ・自己調整力を高めるために、ＩＣＴを活用して生徒の主体性を高める授業を行う。 ・実生活での経験の差が大きいため、安心・安全に実習を行えるよう配慮する。	・「学習の目的（めあて）の確認やまとめ時間が短い。」「グループワークや学び合いによって学習課題を解決できる場面が少ない。」という意見を踏まえて授業改善を行う。

【授業改善の手だて】

	第１学年	第２学年	第３学年
改善計画	・本時の目標を明確にわかりやすく提示し、ふり返り時間を確保する。 ・基礎知識の定着を高めるために、ＩＣＴを活用し、基礎的・基本的な知識の復習を充実させる。 ・調理方法や安全への配慮をイメージできるようデジタル教材などの視覚的資料を用いて分かりやすい授業を行い、経験不足を補う。	・本時の目標を明確にし、見通しをもたせた展開にする。 ・学習者用端末等を活用し、実習、課題に前向きに取り組みやすいよう、自分で計画し実践する授業を取り入れる。 ・想像力を補うために、ＩＣＴを活用した視覚的資料を多く用いる。 ・個別指導を通して基礎、基本の定着と集中力の維持を支援する。	・本時の目標を明確にし、見通しをもたせた展開にする。 ・授業のグループワークなどの言語活動を充実させ、学習課題を解決できる場面を設定する。 ・つまずきの見られる生徒には個別対応をし、基礎的・基本的な学習内容を習得させる。
評価方法	・２学期の生活アンケートの項目５にて評価をする。 ・基礎的・基本的な知識の定着を定期考査やふり返りのレポートより生徒の学習の定着が図れているが確認する。 ・実習の計画・ふり返りレポートをもとに生徒の実習の理解度の確認をする。	・２学期の生活アンケートの項目５にて評価をする。 ・基礎的・基本的な知識の定着を定期考査やふり返りのレポートより生徒の学習の定着が図れているが確認する。 ・実習の計画・ふり返りレポートをもとに生徒の実習の理解度の確認をする。 ・ＩＣＴの活用状況は授業内や、管理アカウントで生徒一人一人の取り組み状況の確認を行う。	・２学期の生活アンケートの項目５にて評価をする。 ・基礎的・基本的な知識の定着を定期考査やふり返りのレポートより生徒の学習の定着が図れているが確認する。 ・ＩＣＴの活用状況は授業内や、管理アカウントで生徒一人一人の取り組み状況の確認を行う。